

October 1, 2019

【前日の為替概況】ドル円、米中通商協議への期待感から 107.74 円から 108.18 円へ堅調推移

30日のニューヨーク外国為替市場でドル円は4日続伸。終値は108.08円と前営業日NY終値(107.92円)と比べて16銭程度のドル高水準だった。欧州市場序盤に一時107.74円と日通し安値を付けたあとはじり高の展開だった。米国株相場や日経平均先物が底堅く推移すると投資家のリスク志向が改善し円売り・ドル買いが優勢となった。9月米シカゴ購買部協会景気指数(PMI)が47.1と予想の50.2を下回ったことで107.93円付近まで下げたが、下押しは限定的で108.18円と前週末の高値に面合わせした。

なお、「米国市場に上場している中国企業の上場廃止を米政権が検討している」との先週の報道を米財務省広報官は否定。ナバロ米大統領補佐官(通商担当)も「報道の内容の半分以上がフェイクニュース(虚偽)」と指摘した。中国政府高官が閣僚級貿易協議の具体的な日程に言及し、協議進展への期待が強まったことも投資家心理の改善につながり、ダウ平均は一時170ドル超上昇する場面があった。

ユーロドルは反落。終値は1.0899ドルと前営業日NY終値(1.0940ドル)と比べて0.0041ドル程度のユーロ安水準だった。ユーロ圏経済への懸念が広がる中、21時発表の9月独消費者物価指数(CPI)速報値が予想を下回るとユーロ売り・ドル買いが先行し、オプションが観測されていた1.0900ドルを下抜けると、一時1.0885ドルと2017年5月以来の安値を更新した。米シカゴPMIが予想を下回ったことを受けて一時1.0914ドル付近まで下げ幅を縮める場面もあったが戻りは鈍かった。

ユーロ円は反落。終値は117.80円と前営業日NY終値(118.11円)と比べて31銭程度のユーロ安水準。117.55円と日通し安値を付けたものの、前週末の安値117.45円が目先サポートとして意識されると買い戻しが進んだ。ドル円の上昇につれた円売り・ユーロ買いが出て117.96円付近まで上げた。

ポンドドルは神経質な展開だった。月末・期末を迎えたロンドン16時(日本時間24時)のフィクシングに絡んだポンド買いのフローが観測されると、1.2346ドルまで値を上げたもののすぐに失速した。英国の欧州連合(EU)離脱の先行きが不透明な中、1.2276ドルと日通し安値を付けた。ただ、「英政府はEU離脱を巡る新たな提案が完成。今週3日にもEUに提出される可能性がある」との一部報道が伝わるとショートカバーが入り、1.2306ドル付近まで持ち直す場面があった。

【本日の東京為替見通し】ドル円、中華人民共和国建国70周年の香港情勢に要警戒か

本日の東京市場のドル円は、中華人民共和国建国70周年と115日目を迎える香港抗議デモの成り行きを注視する展開が予想される。

本日は、北京で開催される中華人民共和国建国70周年の記念式典の最中に、香港でのデモ激化を抑えるため、通常の2倍程度となる1万~1.2万人の駐留部隊を配置している、と報じられているものの、予断を許さない国慶節となる。

ドル円は先週末9月27日と昨日9月30日に高値108.18円を付けたが、108.20-50円に断続的に控えているドル売りオーダーが上値を抑える展開が続いている。しかしながら、9月18日高値108.48円と9月19日高値108.47円を上抜けて108.50円を超えるとストップロスが控えていることで、ドル買い・円売りとなるヘッドラインには要警戒となる。

ドル円のテクニカル分析では、18日高値108.48円と19日高値108.47円で、ツーデイ・リバーサル、抱き線(アウトサイド・デイ)を示現し、4手連続陰線で反落したものの、一目・雲が支持帯となり、4手連続陽線で反発している。一目・転換線の107.72円の上で推移していることで、堅調推移が予想されるものの、今年の高値112.40円から安値104.46円までの半値戻し水準108.43円が攻防の分岐点となっている。

現状の懸念材料は、香港情勢、サウジアラビアとイランを巡る中東の地政学リスク、来週10-11日にワシントンで開催予定の第13回米中通商協議、トランプ米大統領を巡る弾劾の行方、などとなる。

ポンドドルは、ジョンソン英首相が保守党大会でブレグジット(英国の欧州連合からの離脱)を期日通りにやり遂げると表明したものの、ロンドン市長時代の米女性実業家との補助金を巡る疑惑が報じられており、関連するヘッドラインに要警戒となる。

ユーロドルは、ドラギECB総裁による追加緩和示唆、ドイツのリセッション(景気後退)懸念、インフレ率鈍化を受けて2017年5月以来となる1.08ドル台まで下落していることで、本日のユーロ圏9月の消費者物価指数・速報値に要注目となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◎ 8月完全失業率（予想：2.3%）
- 08:30 ◎ 8月有効求人倍率（予想：1.58倍）
- 08:50 ☆ 日銀・企業短期経済観測調査（短観、9月調査）
- ☆ 大企業製造業の業況判断指数（DI、予想：2）
- ◎ 大企業非製造業の業況判断指数（DI、予想：20）
- ◎ 大企業製造業DI・12月見込み(予想：1)
- ◎ 大企業非製造業DI・12月見込み(予想：16)
- ◎ 大企業全産業設備投資計画（前年度比、予想：7.0%）

<海外>

- 10:00 ◎ レーン欧州中央銀行（ECB）専務理事兼チーフ・エコノミスト、講演
- 10:30 ◎ 8月豪住宅建設許可件数（予想：前月比2.5%／前年同月比▲20.0%）
- 13:30 ☆ 豪準備銀行（RBA）政策金利発表（予想：0.75%に引き下げ）
- 15:00 ◇ 9月英ネーションワイド住宅価格指数（予想：前月比0.1%）
- 15:30 ◇ 8月スイス小売売上高
- 16:00 ◇ 9月トルコ製造業購買担当者景気指数（PMI）
- 16:15 ◎ エバンズ米シカゴ連銀総裁、講演
- 16:30 ◇ 9月スイスSVME購買部協会景気指数（予想：46.5）
- 16:50 ◎ 9月仏製造業PMI改定値（予想：50.3）
- 16:55 ◎ 9月独製造業PMI改定値（予想：41.4）
- 17:00 ◎ 9月ユーロ圏製造業PMI改定値（予想：45.6）
- 17:30 ◎ 9月英製造業PMI（予想：47.0）
- 18:00 ☆ 9月ユーロ圏消費者物価指数（HICP）速報値（予想：前年比1.0%）
- 18:00 ☆ 9月ユーロ圏HICPコア速報値（予想：前年比1.0%）
- 18:20 ◎ ロウRBA総裁、講演
- 21:30 ☆ 7月カナダ国内総生産（GDP、予想：前月比0.1%／前年比1.4%）
- 21:50 ◎ クラリダ米連邦準備理事会（FRB）副議長、あいさつ
- 22:30 ◎ ボウマンFRB理事、講演
- 22:45 ◎ 9月米製造業PMI改定値（予想：51.0）
- 23:00 ☆ 9月米ISM製造業景気指数（予想：50.1）
- 23:00 ◇ 8月米建設支出（予想：前月比0.4%）
- 2日 01:45 ◎ ドラギ欧州中央銀行（ECB）総裁、講演
- 2日 02:30 ◎ バイトマン独連銀総裁、講演
- 2日 03:00 ◎ 9月ブラジル貿易収支（予想：32億ドルの黒字）
- 中国、香港（国慶節）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

30 日 08:50 日銀金融政策決定会合における主な意見(9月18-19日分)

「追加緩和手段については、緩和効果をもたらすとの目的を明確にし、予断なく、短期政策金利の引き下げ、長期金利操作目標の引き下げ、資産買入れの拡大、マネタリーベースの拡大ペースの加速など、あらゆる政策手段を検討すべきである」

「低金利環境のもとでは、金利が株価や為替に与える影響が変化する結果、金利低下が、必ずしも株高・円安に繋がるとは限らない」

「物価上昇のモメンタムが損なわれる惧れについて、より注意が必要な情勢になりつつあり、そのことを念頭に、次回の決定会合において経済・物価動向を改めて点検していくことが必要である。このことは、公表文に記述し、対外的に明確にすることが望ましい」

30 日 14:43 ドラギ ECB 総裁

「金利や資産買入れ、フォワードガイダンスなど全ての政策手段を調整する用意がある」

「インフレ期待は全ての地域で低下している」

「リスクの大半は通商摩擦やブレグジット、地政学リスクなどユーロ圏外の要因」

30 日 16:30 ジャビド英財務相

「10月31日に合意なきまま EU を離脱する可能性はまだある」

「合意なき離脱の短期的コストはわからない」

「合意なき離脱の混乱に対応できる自信はある」

30 日 17:27 アルバイラク・トルコ財務相

「大きな経済困難を 1 年で乗り越え、プラス成長(0.5%)で今年を終えるだろう」

「2020 年は 5%成長を予測(前回予測は 3.5%)」

「19 年のインフレは 12%へ(前回予測 15.9%)、20 年は 8.5%の見込み(前回 9.8%)」

「金融機関は今後、不良債権を処理できる」

「銀行は資金供給を積極的に行えるようになる」

「トルコはドル化を低下させる方針」

30 日 17:33 西村経済再生相

「増税が消費者マインドにネガティブな影響を与える懸念ある」

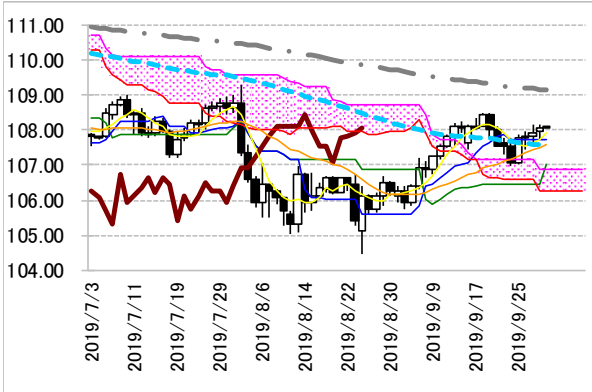
「必要と判断すれば躊躇なく対策を打っていきたい」

30 日 23:13 格付け会社スタンダード・アンド・プアーズ(S&P)

「2019 年の米 GDP 見通しを 2.5%から 2.3%に下方修正」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

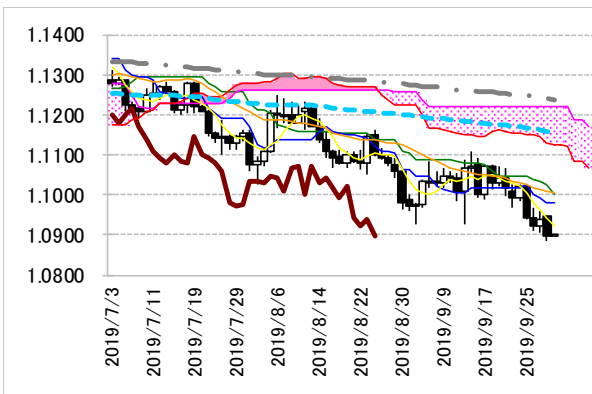


<ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。4手連続陰線で反落後、4手連続陽線で反発していることで続伸が予想される。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下回った場合は手仕舞い。

レジスタンス1	108.48(9/18 高値)
前日終値	108.08
サポート1	107.72(日足一目均衡表・転換線)
サポート2	107.04(日足一目均衡表・基準線)

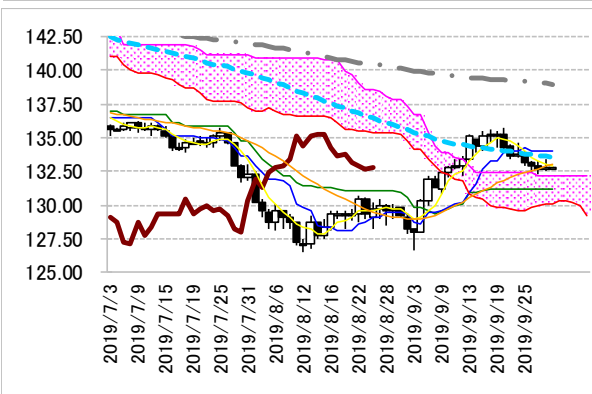


<ユーロドル＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。27日の孕み線を30日の抱き線が打ち消しており、続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.0979(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.0899
サポート1	1.0743(9/3-13の上昇幅の下方倍返し)

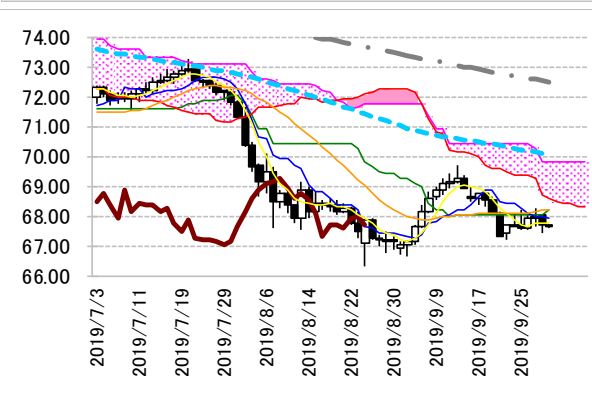


<ポンド円＝雲の上限を支持に押し目買いスタンス>

寄引同事線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。9月20日の高値から下落基調にあったものの、雲の手前で寄引同事線が示現しており、反発の可能性が示唆されている。

本日は、雲の上限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	134.04(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	132.81
サポート1	132.17(日足一目均衡表・雲の上限)



<NZドル円＝基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。2手連続陽線で反発していたものの、抱き線で反落しており、下落トレンド再開が示唆されている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	68.18(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	67.69
サポート1	67.21(9/23 安値)

